

平成31年3月28日

名古屋四日市国際港湾株式会社

名古屋港統一ターミナルシステム(NUTS)改良・開発支援について

1 概要

名古屋港では、元請け港湾運送事業者が連携して構築した名古屋港統一ターミナルシステム「NUTS(Nagoya United Terminal System)」により、全てのコンテナターミナルのシステムが一元化されており、物流の効率化が進んでいます。

NUTSは1999年の稼働から20年を迎えることから、更なる機能向上を図るため、名古屋港運協会では同システムの改良プロジェクト「NUTS Second」を立ち上げ、AIやIoT技術を積極的に導入して、次世代コンテナターミナルのオペレーションシステムの構築を目指しています。

伊勢湾（名古屋港・四日市港）の強みであるターミナルシステムの機能強化、管理運営の効率化につながるものであり、当社としましても、名古屋港の物流効率化に寄与している名古屋港統一ターミナルシステム「NUTS」の更なる効率性・利便性の向上のための改良・開発に対して、経済的支援をすることといたします。

2 支援の内容

対象者 : 名古屋港運協会
金額 : 年間10,000千円
期間 : 平成31年度から5年間

3 NUTS改良の概要

裏面の参考資料をご参照ください。

問い合わせ先

名古屋四日市国際港湾株式会社

企画総務部企画課 糸川、城

TEL 052-651-7585 FAX 052-651-7586

NUTS（名古屋港統一ターミナルシステム）改良の概要

1 NUTS の導入から現在まで

NUTS は 1999 年の導入以来、実務者のニーズに合わせた改良を重ね、大きくは 2 回の改良（2007 年：新 NUTS、2014 年：次期 NUTS）を経て名古屋港全てのコンテナターミナルを一元管理している。

その過程では鍋田ターミナル、TCB や集中管理ゲート等の新たな現場への導入や、NUTS Web を利用した輸出入コンテナ搬入出の事前審査制度導入、本船スケジュール表示を代表とした機能を導入する事により、ターミナル運営者と利用者双方の効率性や利便性の向上を実現してきた。

2 NUTS second プロジェクト発足の経緯と目的

名古屋港運協会名古屋コンテナ委員会ターミナル部会では導入後 20 年を目前にして過去の改良では補いきれなかったハードウェアの経年劣化や NUTS の基幹システムであり全てのコンテナの管理をしている CS（コントロールシステム）の更新時期に対応すべく「NUTS second プロジェクト」を立ち上げて、プログラムを一から見直し大幅改良する事を決議した。

又、OCR、AI や IoT 技術を積極的に導入して、次世代コンテナターミナルのオペレーションシステムの構築を目指す事としている。

3 導入効果

- ① 作業効率向上
- ② 作業環境改善
- ③ 少子高齢化対策
- ④ 作業の多様化への対応

4 改良項目

- ① ハードウェア更新：ネットワーク環境、PC、車載端末、タブレット端末、カメラ、他
- ② ソフトウェア更新：AI、IoT 導入
- ③ CS（コントロールシステム）更新
- ④ NUTS Web 更新

5 スケジュール

2023 年の全面導入に向けて CS を含めたオペレーションシステムの改良を完了し、ゲート機器やヤード内機器車載端末は各更新時期に合わせて先に順次入替を行う。